京城新報

人の一生は重き荷を負ふて遠き道を行くが如し急ぐべからず

●韓鐵經濟の前途（某當局者の談）

韓國鐵道を經濟上より論ずるに先ち之が布設及び統一上の沿革並に之に對する私見を述べんとす抑も韓國鐵道の起原は明治九年米人「モールス」なるもの韓國政府より京城仁川間鐵道布設の特許を得て線路工事中卅二年一月京仁鐵道引受組合に於て之を引受け同年五月組合を變更して京仁鐵道合資會社となし引續き工事を進め卅二年九月十八日仁川鷺梁津間二十哩余の運輸營業を開始す之れ韓國に於ける鐵道營業の嚆矢とす續て卅三年七月鷺梁津西大門間五哩余の工事竣成し玆に京仁線全部の運輸營業を開始せり京釜線は明治卅七年八月日韓兩國間に協定せられたる暫定合同條欵及卅一年九月締結の京釜鐵道合同條約に基き且つ卅三年九月發布の法律及勅令に準據し卅四年六月を以て成立したる京釜鐵道株式會社に於て同年八月南は草梁より北は永登浦より工を起せり玆に卅六年十月京釜鐵道會社は京仁鐵道一切を買收して韓國に於ける鐵道統一の端を開けり同年十二月日露干係の切迫せるに當り我政府は京釜速成の命令を發して大に其工を進め三十七年には南北各區間に於て百十三哩に渉り便乘載の取扱をなすに至り同年十一月末には全線二百六十七哩余を竣成し卅八年一月一日運輸營業を開始せり京義及馬山線は卅七年二月日露戰役開始後兵站總監の下に臨時軍用鐵道監部を置き先づ龍山開城間に鐵道布設の任務を授けられ同部員は三月韓國に渡り直ちに工兵隊及鐵道隊を役して工事に着手せり次で同四月開城平壤間同六月平壤新義州間鐵道布設の命あり八月更に三浪津馬山間鐵道布設を命ぜらる當時兵馬倥偬の際諸種の困難ありたるに拘はらず速成を旨として工事を急施し卅八年二月龍山開城間開通し超て同四月清川大寧兩江を除き開城新義州間碧瀾渡支線及兼二浦支線の工事竣成三十九年三月右兩江の假橋成り始めて全線開通し馬山線は卅八年五月全部開通し京義線は碧瀾渡支線を除き同年八月より（但運賃を徴收せしは十月一日より）馬山線は卅八年十月より客貨の便乘載を開始せり

●日韓瓦斯會社難工事

南大門外保税倉庫前通の瓦斯管埋設に就き地盤堀鑿上意外の困難に遭遇し長日子を要したる切岩工事も昨日に於て全く其工を了へ今や鐵管埋設の最中にしあれば今明日に於て全く同區間の埋設を了るべく長時日間貨物運搬及他一般通行人の被れる大迷惑も玆に全く平常に復するとゝなりたり

●侍天教と天道教

曩に侍天教と天道教との間に合同を計畫する所ありしも遂に不調に終りたるが今回又々兩教の同合を陰密に運動中なるも結局相談纏らざるべし

●面長の職制發布

既報面長の職制に就き度支内部兩部に於て協議中なりしが此程全く議纏まり目下統監府に回送し認可次第直に發布の筈なれば同制施行も近々の内にありと

俳句

○花火十句　多田千春

不倒翁雲に乗りけりひる花火
奢りには限りなき世や揚花火
星一つ花火のあとに光りけり
花火見の留守からも見花火哉
大空へ智惠の廣がる花火かな
揚げ花火觀光團をむかへけり
雲井まで奢りの届く花火かな
人の氣を纏めては散る花火哉
束の間の色をあらそふ花火かな
祝辭すんで今盛りなり揚花火

中山大納言

第四十九席　桃川燕玉演

右「いや、あなたの御孝心は感服を致したが、さうさ十九年あと家出をした、何處に居るか的てゝ呉れろ、雲を摑むやうな探し物、併しまあ及ぶだけ肺肝は碎きませう、まあ〳〵御控なさい、易の表に依る外はない」と是から算木を取出し筮竹を取つて丹精を凝らし一卦を立てました　右「さて傳次郎殿、成程只今出た卦面は、どう考へてもあなたの母さんは死にはしない、確に生きて居なさる　傳「エヽ、今迄諸方で見て戴きましたが、何誰も生きて居ると斯う云ふ事でございます、何方の方角に居りませう　右「先づ西だナ　傳「へ、エ西と申しまして何邊でございませう　右「さればサ、そが分らぬ、西と云つた所がなか〳〵廣いからナ、西の方に確に生きて居るには違ひないが……　傳「縱令五百里が千里あつても構ひませぬ、私は居る處さへ分りますれば是から迎へに參ります考へ、どうか先生確り居りまする處を一つ敎へて戴きたいもの」親孝行の一轍心、當人はむきになつて膝を進めて頼む、流石の右門も閉口をして仕舞つた　右「何しろ今此處で斯うと即答も出來ぬ容易ならぬ事だ、あなたの御孝心に感じて私が丹精を凝らして能く考へて進せる神佛の力を借りる外はない、私が能く考へて進げるから二三日過つて御出なさい　傳「有難い仕合せ、左樣なら何分どうか御迷惑を願ひます……　番頭殿や」　番「へイ」。懷て連れて來た新兵衛と云ふ男が包を其處へ出した　傳「さて先生是は誠に失禮でございますが御禮の印、どうか御受納を願ひたい」と五十兩と云ふ金子を紙に包み水引を掛けて出した　右「これはしたり、私は謝儀を貪つて易を占ふではない、市中普通の賣卜者とは違ふ、斯樣なものは一切要らぬ、殊に五十兩と云ふは大金だ、どうか其方へ……　傳「誠に輕少ではございますが、どうか是は御受納を願ひたうございます、之を御受け下さらないと誠に私も心苦しく……　右「イヤ拙者が却つて迷惑をする、兎に角是は御持ち歸りを願ふ、金錢に拙者は眼を眩さし慾で致す、そんな次第ではない……では斯樣致さう、拙者が篤と考へて、あなたの母さんに再會をなすつた其時には、御喜びさして五十兩戴く、夫迄以是は御持歸りなさる方が宜い」何と言ても受けませんから、ろくで傳次郎は據ろなく五十兩の金を持つて呉れ〳〵頼んで立歸つた。後へ殘つた藤井右門「厄介な事を頼みに來た、何しろ當人も家母に遭ひたいと云ふ孝子の一念、どう遭はせてやりたいが、どうも困つた事が出來した、ハテナ……」腕拱いて暫く考へて居ると、額を開きつて來たがある是則人ならず、武内式部、當時松庵被布と云ふ物を着て頭は撫付けで良い人物にこ〳〵笑ひながら入いつて來た　右「是は〳〵竹内先生、何時の間に御出になつた　松「大貳先生を御尋ねをした所が、今日は御他出と云ふ、貴公へ御話をしやうと此れへ參る、御客來た、暫く次の座敷で御話を承つて居つた、何か八幡屋傳次郎と云ふ仁の母の事で其許肺肝を碎いて居さつしやる……　右「左樣……　松「藤井其邊を御開け　右「へイ　松「其邊を開けさつしやい、ちと他聞を憚る密談がある　右「ハヽア」立上つた右門、其邊の唐紙障子を皆開け拂つた、見渡す所誰も立聞く者はない、座の眞中に坐つた竹内式部　式「右門……　右「へエ　式「旨い事が出來をした哩　右「何……　式「金の蔓を之の神明前へ植ゑた、軍用金に差支はない、どうも至極好い時期に向つて來たナ　右「それは何で……　式「八幡屋傳次郎、あれは當時名代の財産家だ、彼れを味方に引入れ軍用金は彼に出させる、と云ふのは傳次郎の阿母を御身が易術の力を以て遭はしてやれ、さすれば彼れ御身を神佛の如く尊んで、必ず斯うせいと云ふハイ、あゝせいと云ふハイ、何十萬の金でも乾度出すに相違ない、早々傳次郎の母を會はして御やりなさい　右「是はしたり先生、會はしてやれと仰有つて、是が容易に分るものでない、雲を摑むやうな探し物、殆ど拙者も困り入つて居る　式「さて其傳次郎の母の居る處は斯く言ふ式部が知つて居る、併しお前の母は此處に居ると言つては少しも有難味がないからナ、敵を謀るは味方を謀る、穴賢御身と我等の外は誰にも言つてはいかぬ、當家の主人山縣大貳其人にも決して話をしてはいかぬ、宜いか　右「ハヽア、竹内先生は御存知でいらつしやる　式「存じて居る　右「何處に傳次郎の母と云ふ者は居る……　式「されば、豐前の宇佐八幡の神職鵜羽又太夫と云ふ者の妻になつて居る　右「ホヽウどうして御存知……　式「先年拙者が三箇の津御構ひとなつて、愚妻初江を連れて諸方を遊覧をし、有馬へ參つて久しく湯治をして居つた　右「成程　式「御所坊と云ふ宿屋に暫く居ると其處で相宿になつたのが宇佐八幡の神職鵜羽又太夫もう五十ばかりの人物、女房は大分年が若い、所が拙者は又太夫と懇意をし、愚妻は其の先方の妻と、女は女同士懇意となり、段々話を承つた　右「成程……

京城新報

韓國貧乏の程度

韓半島の貧乏なるは、其山の禿たるを、河川の涸れたるを、土地の荒廢せるとを見るも直覺的に之を知り得べし、然れども日本の本土に等しき面積を有し、一千萬の人口を有するの邦土也、如何に貧乏なりと雖も何れかに潜める富なきにしもあらず、亦何人も幾分豫想する所也、然るに今回の韓銀株應募の數により韓半島の貧乏は遺憾なく暴露せられたり。

素より今回の韓銀株應募者中には種々なる分子混合し必ずしも堅實なる資本家のみにあらざることは余輩の認識する所に疑はざる所也、然れども當局者の豫め茲に注意する所あり、爲に彼の投機師等は株を擁する能はざりし也、果して大体に於て總株數を應募せしとすれば今回の應募は先以て割當株に對して拂込を了し得るの資格を有するものと認むるも敢て差支なかるべき也。

韓國銀行は猶ほ字の如く韓國の銀行にして、而も韓國政府の保護の下に設立せらるゝものなれば如何に疑懼心深き韓人と雖も其組織性質に就て些も疑ふの餘地を存せざる筈也、然るに今茲に日本に於ける應募株數と韓國に於ける應募株數とを比較すれば、韓國の應募株數は日本のそれに比して僅々四十二分の一に當るのみ、是れ實に驚く可き少數に非ずや、而も此四十二分の一は在留邦人の應募株を含有せり、前にも述ぶるが如く、韓人が韓國銀行の組織に於て何等疑ふの餘地なき點よりするも少くも日本に於ける應募數の四分の一位の應募數なかるべからざる筈也、然るに何ぞや四十分の一を超ゆるに至らざるは何ぞ。

細かに云へば、最も今日の韓人と雖も銀行會社の株式を了解し安心して放資する丈けの智識を有するものは或は少からむ、然れども韓國銀行設立の事は遠き以前より諸方に上り、且つ其話よりも應募を奨勵したる際に於ける居りしならば、放資する金を有しつゝ應募せざるもの多しとは思はれず、之を要するに此等詳細なる理由は別として今回の應募株數が韓國に少なかりしは韓人が投資心の缺乏せるにもあらず、韓銀に對して不安を感じ爲にもあらず、全く放資すべき資本其物を有せざるに依る、韓人は斯の如くなるが故に在留邦人は如何と云ふに是亦應募數は僅々たるものたる也、其是れ恥づべき事なれども亦止むを得ざる也、果是れ韓國にして韓人を通して全体に資本の缺乏を感じ居るがためなり、假令如何に權利株が五十圓に飛ぶも六十圓に昇騰するも、月三分に廻る金を以て應募する能はず、亦月三分に廻る金を借りて應募する譯にも至らじ、窮極資本の缺乏今日の如くにして利子の高率なる間は如何なる銀行會社が設けらるゝも株主を韓國に於て多く得ることは到底不可能なりとす、遮莫韓國に於て最も急務なるは利子の低落を計ること也、而して利子の低落は資本の充實に俟たざる可らず爲政者は宜しく今回の韓銀應募株の成績に徴して利子の低落を計ることに努めざる可らざる也。

東京電報

韓國傳染病調査

韓國に於ける傳染病調査の爲め傳染病研究所技師梅野信吉氏は本日韓國出張を命ぜられたり(十一日發)

鍋島氏と墨國公使

統監府外務部長鍋島參與官は墨其西哥公使の候補に數へらる(十一日發)

齋藤大佐と總領事

統監府間島派出所長齋藤大佐は今回統監府派出所廢止の結果新設さるべき間島總領事に任命さるべしとの説有力なり(同上)

駐米大使の後任

高平駐米大使辭任の結果其後任は栗野愼一郎内田康哉の兩氏擬せられ居りしが兩氏共固辭して應ぜざるを以て牧野伸顯氏を起たしむる事に内定せり(十一日午前着)

貿易前途は樂觀

高橋正金銀行頭取は現下の貿易現象に就て語つて曰く吾が貿易額の好現象を呈せるは一般實業家が愼重なる態度を持し此危地を經過せし爲めにて前途發展の兆ありと樂觀するは不可なり(同上)

韓國鐵道は合併

小林參事、技師過日韓國鐵道を視察し復命の結果之を我鐵道院に合併することに決したり(同上)

安達代議士出發

代議士安達謙三氏は本日夜行列車にて新橋出發渡韓の途に就けり(十日午後發)

韓太子の御贈品

韓太子の御使武官は本日東北、北海道地方巡啓に於ける御土產品を我皇太子殿下に献上したり(十一日)

氣球會規則議定

軍用氣球研究會長長岡中將以下第一回研究會を開き海陸兩相の訓令を報告し規則を議定したり(十一日發)

紐育電報

探險家の報告競爭

北極を探險したるペアリ氏とクック氏は探險の結果報告に就き競爭盛んなるが目下の所にてはクック氏の探險記評判惡しきが如しと而して學者は競爭の結果事實を誤傳されん事を憂慮し居れり(十一日東京經由)

米國鐵道王死す

米國鐵道王ハリマン氏の病狀に就ては世界の耳目を聳動し其眞否を確むべく各新聞記者等は種々の手段を盡したる位なりしが遂に一昨九日アーデンの別莊に於て逝去したり(同上)

雜報

證據金の拂戻期

韓國銀行株式應募數は別項の如く二千五十三萬餘株にして此證據金一億二百六十五万餘圓の巨額に達したれば當局者は一日も早く之が拂込を遂行するの必要を認め事務員を督勵して整理する筈なるも九州韓國に亘り募集區域廣く申込書の到達は早くも一週日を要すべく更に夫れより一々調査を遂げ募入外と募入者を定め通知する時間も亦約一週間を要すれば實際證據金の拂戻時期は二十三日頃ならんと云ふ最も今日迄は創立事務所の主管なるが爲め豫定通り決行せるも向後は他動的にして取扱銀行が申込書等の發達を遲延せば假令一ヶ所遲るゝも全体に影響すべく或は四五日位遲延するやも豫め計り難しと雖も遲くも今月中には拂戻す手筈なりといふ

韓銀募株の内譯

韓國銀行株式募集の概數は既報の如くなるが其後誤謬訂正等の爲全体に於て若干の相違を來し結局二百九十四倍九九四となれり其地方別左の如し

東京	四、九九九、七六一	大阪	七、六六二、九六六
京都	一、〇五四、三七四	名古屋	二、一〇五、一六四
神戸	六一九、〇三三	横濱	八二一、七八九
北海道	四一、三九九	福島	二九三、〇〇三
金澤	三六三、九五〇	新潟	三六一、一九八
高松	六一、一〇六	土佐	一〇四、八二五
松江	三五、三五四	廣島	三九七、六五一
門司	七八四、〇三五	肥後	一九五、二三六
鹿兒島	一八九、七九一	韓國	六〇七、〇二〇

即ち總計二千五十三萬一千六百十四株(二九四倍九九四)なり。

密漁船と日清の交渉

韓海出沒の清國密漁船は四時數千の多きを以て數ふ可く故に之が取締に就ては從來當局官憲に於ても非常の苦心を重ねつゝありしが彼等の去來出沒頗る巧みなるを以て到底之を防禦するの途なきを慨じ寧ろ清國政府と協商を遂げ漁業條約を締結して清國人の韓海漁業を許す代りに吾が日韓人は自由に遼東沿岸の漁業權を獲得し以て彼我交換的に其利益を露被するに如かずとなし曩に清國政府へ交渉を開始せしが清國政府は韓海漁業は年來の既得權なるに更に自國の領海をお韓人に蹂躙せしむるが如き不當の要求には應じ難しとて斷然刎ね付けたるより遂に中止となれる由然るに今にして之を顧みれば此交渉成立せざりしは韓海漁業の爲めに非常の幸福なりと當局者は語れり

警備船と匪徒の恐慌

密漁船及び海賊警戒の爲め韓政府にて新調注文中なりし警備船は既報の如く來る十五六日頃受渡を了へ武裝を呉港にて施こし募集乘組員の手にて廻航せしむべき筈なるが此事韓字新聞に載せられ鼓大に傳へられたるより根據を沿海各島嶼に有する海賊等に非常の恐慌を與へ近々日本海軍は數十隻の大艦巨船を派遣し海陸の聯絡を絶ち以て我等を殄殺せんとする計劃ありと恐怖し孰れも陸上に逃避し來れり尤も之が爲めに南韓暴徒の勢力は格別增大せざるも民心兎角不穩となれるもの如しと南韓より歸來の某將校は語れり

日本觀光團員の演説

去月廿六日全北韓人民會に於ては日本觀光團員李源升の觀光所感の演説あり傍聽者は觀察使及び官民重立たる者六十名にて其の演説は日本文化の進歩及び官民の誠意歡迎方等にして諄々一時間に亘りしが傍聽者の感興を惹きたること頗る深かりしと云ふ

東拓借入金

東洋拓殖株式會社と大看板を揚げても仕事は御承知の通り一コー抄々敷參らぬ目下計畫中の漁業も云はゞ漁場料を目當の仕事であつて會社は必然幾らかの儲を見ることは出來ようがさりとて看板に相當したる仕事をする迄には多くの年月を要する、茲に先以て第一の活動を望むは金融部である、而るに何の因果か金融部が如何に活動せんとしても貸附金は拂込金五分の一を過ぐることを得ずとの東拓法及び定款に拘束される、今や諸方よりの借入申込高は三百萬圓に達して居る而して貸附得る資金は五十万圓に缺いて居る宇佐川總裁たる者岩佐理事たる者如何に暢氣で在つても安閑としては居られぬ因つて兩氏は先頃東上し或方面に向つて低利資金借入の交渉を遂げ其結果愈二百萬圓許りを手に入ることにしたツウである、扨コウ成つて見ると此二百萬圓は無論金融部を通じて貸出される、事になる、宇佐川君や岩佐君や眞に斯したりとすれば非は近頃の大出來と云ねばならぬ、但し此二百萬圓が如何なる方面に貸附けらるゝかは一寸見物である、序に申す資金の充實は甚だ結構である併し貸附を下手に遣れば後患を貽すに違いがないドーカ來年の總會の問題にならぬ樣手際良く御運轉を願たいものである。

皇室申込分は優先株

韓銀株申込の内日韓兩皇室申込の各一千株は特に優先株として取扱ふ事に決したる由

韓國の營林事業

▲杉樹は不適 我邦にては杉材の需要最も廣く便利なるが元來同樹の生育は土壤よりも大氣の乾温如何に關係す日本を縱斷する脊髓山脈一帶には殆んど杉を產せざるなし往時濫伐の結果其跡を絶ちし場所例之ば中國以西の或地方の如き處なきに非るも近年營林の發達と共に斯る地方も漸次杉林を見るに至れるが之等は日本海又は太平洋上より來る濕潤なる空氣の影響に因るものにして木曾一帶の如き自然海岸に遠ざかり他の山勢の爲め温潤なる空氣に接せざる地方に比較的杉林に乏しきを見ても之を知るべし然るに韓國は大氣非常に乾燥せるを以て特殊なる地域の他杉樹の造林に不適なるが如し

▲營林の道程 として韓國の如き荒廢甚だしき地には劣等樹乃ち植物學上劣等に非ずとするも經濟上需要狹小にしてマッチ若くは製紙原料或は薪材のみ位に適するポプラアカシヤ、櫟の如き劣等林を造成するを便利とす之等の樹は韓國到處に適しポプラの如きは採伐者もなきを以て還種の樹にて土壤を肥沃ならしめし後漸次造林の目的を達するを便利とすべし

▲一種保林法 樹木に乏しき韓國にては採伐の時相當制裁を設け樹木を斫盡さずして點々樹木を所存せしめ置くは將來營林の爲め土地を保護する上に於て最も必要ならん

▲國民の教育 最急務は國民をして營林の必要を覺知せしむるにあり之には幻燈其他現今の民度に相當する方法を以て植林思想を養成する方便利なるべく要するに韓國の造林は一大事業にして當局者の苦心一方ならざるべし余の如き滯在日數淺く視察の範圍狹ければ充分の意見を逃ぶるを得ずと云々と林秋田大林區署長は語れり

東拓臨時借入金

東洋拓殖會社にては金融部貸附資金充實の目的を以て金二百萬圓を或方面より臨時借入を爲すことに決定したりと云ふ

三南鐵道期成同盟會

去る九日公州鳥致院清州等の居留民は三南鐵道の速成を期する爲め鳥致院に會合し同日午後三時より鳥致院倶樂部に於て三南鐵道期成同盟發會式を舉行し同時に役員選舉を行ひたり其結果左の如し

會長丸山虎之助、副會長西頭謙吉、幹事大南省三、山田敬一、合田澤太郎(以上公州)柴田又三郎、後藤萬之助、吉川直藏(以上鳥致院)松木洲、元田元造、植村容親(以上清州)

右撰舉後直に協議會を開き左の決議を爲す

一、三南鐵道の速成を期する件
二、分岐點を鳥致院と定むる件
三、以上の目的を達する爲め公州、清州、鳥致院の三居留民は協同一致の態度を以て當局に請願する件

沿岸航路計畫の妥協

曩に仁川港頴原、加來、木村、慶田、沖津、立石等諸氏の聯名を以て仁川を起點とし群山九味浦、噸貫、海州、大湖之間を施行する航路を開始せんとし三箇年間年々三万八千圓の補助金支給を韓政府へ出願せしが其後右諸氏の内に組合組織とするか會社組織とするかの議論起り其結果内輪の紛擾を來たして折角の願書は哀れ却下の運命を見んとしたるに此頃漸く妥協成り組合組織とするに決したる由なれば韓政府當局者にして之を諒し目下補助金給否に就き詮議中なりと

東拓社は出品不可能

日英博覽會出品に就ては同會委員より東拓會社へ對しても出品を促がし來りたる由なるも該社は創業日尚ほ淺く格別顯著なる事績を有せず亦農作物等に就ても未だ一回も收穫せし事なき有樣なれば到底出品不可能なる由

栃木觀光團下仁

栃木縣の視察團一行は昨十一日午前九時四十分仁川驛に到着し信夫理事官、岩崎民長、荻谷書記長其他の出迎を受けて市内を巡覽し夫れより仁川倶樂部にて民團及び商業會議所よりの饗應に滿足の意を表し即日京城に引返したり

西島中將送別會

石塚長官明石參謀長發起となり今十二日午後六時三十分より掬翠樓に於て西島前六師團長の送別會を開催する筈なるが出席者は參與官軍務僚小松、國分、佐竹、本多の統監府各高等官及菊地大韓醫院長高階同副院長外四十名の由

漢城衛生會開會

漢城衛生會は昨十一日午前九時より内部に於て開會したるが會するもの岡次官、榊原少將、松井局長、熊谷民長、若林總監、菊池大韓醫院長、藤田軍醫監等にて十一時過ぎ散會したりと

排日外人の入京

嘗て排日を鼓吹したる米國宣教師アンダーウツド夫妻は一昨十日午後十時二十分南大門着の滊車にて入京し西部盤石坊里門洞の自邸に入りたり

東亞工場の認可

東亞烟草會社より韓政府へ貸與出願中なる元第五十一聯隊營舍跡は昨十一日認可せられたりと云ふ

警察部長會開期

全國警察部長會議は來る十六日内部に於て開催せらるべし

富田民長追悼會

前仁川民長富田耕司氏の追悼會は信夫、岩崎、加來、奧田、横山の五氏發起にて來る十七日午後六時本願寺別院に於て舉行さるゝ筈なるが參會希望者は金一圓を添へ横山助役に申込まるべしと

佛領事館員昇任

京城駐在佛國總領事館員ドラブラード氏は是迄領事官補なりしが今回副領事に昇任し引續き在勤する由にて今朝小松外務部長代理を訪ひたり

理事官等出迎へ

信夫仁川理事官、宮木同税關長、島燈臺局長は再昨日統監夫人出迎の爲め永登浦まで赴き即日歸任せり

島燈台局長入京

仁川燈臺局長島重治氏は來年度豫算編成に關し今般開會の税關長會議に列席する爲め昨十日入京したり

總領事代理下仁

在京の米總領事代理ヲーシグルド氏は一昨日下仁同日午後五時仁川出港の群山丸にて木浦へ赴きたりと

一進會の協議會

同會は一昨夜三派合同に關する幹部の協議會を開き異議無可決

大韓協會の總會

同會は昨日午後一時より總會を開き三派合同の議を決せりと

信夫理事官入京

仁川信夫理事官は沿岸航路に付農商工部に打合の爲め入京せり

吉田檢事長歸任

入京中なりし大邱地方裁判所檢事長吉田雄六郎氏は昨十日歸任

會計課長の任命

燈台局主事大庭有也氏は今回會計課長に任命せられたりと云ふ

庵原課長の引籠

病氣の爲め引籠中也

本日の説教

●日の出町の教會 本日曜日午前九時より日曜學校同十時より禮拜説教洗禮晩餐二大典執行午後八時より傳道説教其演題は朝、未得の所有(米澤牧師)夜、心靈の内容(同)

●旭町の基督教會 午前八時半より日曜學校同十時より禮拜説教演題は朝、惡より救出し給へ(石原牧師)晩、神子の自覺(同)

公人私人

▲岡田宣成壽(南警察部長) 十日入京山本
▲關谷勇(咸北同上) 同上不知火へ
▲大寶彌男二(鑛山技師) 同上山本旅館へ
▲早坂定義(明治生命社員) 同上巴城館へ

近事片々

▲常識 着實の奬勵過ぐれば人は皆平凡化し去る現時の日本は此弊に陷入れる歟なきか
▲學校 は凡人意氣地なしの製造所たるの觀なきか赤門出身者は好箇の標本ならんか
▲世は 鈍栗の脊競べ也見よ總理大臣も裏店の八公熊公も其間大なる差違を見ざる也
▲大冒 險家大英雄に依らざれば國運の大發展難し日給取理想の輩多ければ國運不進
▲大英 雄大冒險家の出づるの國は活氣あり榮光あり平凡の製糞器械は最早多に過ぐ
▲歐米 には絶へず大冒險家大發明家等出現す國勢の隆興は此種の人に負ふ所多き也
▲大和 魂耳奬勵するも重箱の隅を楊枝にて穿つが如き者にては天下の事は爲し得ず
▲殖民 地にある者は官民共に飽迄放膽なれ大陸經營の任は畢竟卿等の双肩に掛かる
▲清津 港關税免除は鍋嶋外務部長歸任の上細則を發布し實施すべしと今頃報ぜらる
▲鍋島 部長の滯京も長いが清津關税免除の幕開も長い歳月は悠々たり氣長も亦可也
▲小松 書記官の間島に就ての談話も例によりて平凡而も霞ケ關臭き所は聊か面黑し
▲領土 權讓歩の代に吉會線布設權を得たるは空論を捨て實を取る杯は言はずもがな
▲韓美 電氣のコールブラン君が非常に奢侈を極め居るとの説頃者頻々として起來る
▲併し 羨む勿れ成金黨は何れも同じコールブラン先生此轍に漏れず御里が能く判る
▲持ち つけぬ金を急に持てば凡夫は皆斯の如しそんじよ其所等の役人方亦然らんか
▲北極 探險のク博士曰く北地土人は北極點に進む事を得可しと地球の北軸愈接近す
▲國旗 を北極に建てゝ我領土と米人意氣揚々國運の發展は多くは冒險家の働に依る
▲韓銀 株の權利株賣買に就て桂侯大に利する所ありとの説あるも豈夫此事なからむ
▲實業 家に接近すれば直に面白からぬ風評起る併し是は人格に依りて風評を異にす
▲相州 久里濱に金色の大蛇現はる浦人頃者大蛇狩を催すと見事捕つたら黃金に成蛇

明日の吉凶録

九月十三日(舊七月廿九日)三碧大安丙子

厄日なり識愼すべし暗劍殺なし他郷より音信に接し懸賞煩悶の事あらん△四緑●すべし銘意留意すべし旅行轉任轉醫轉藥凶△六白●總じて寂寞の日にして凶なる[illegible]△[illegible]口角飛沫他人と利權を爭ふあり結局[illegible]に神あり養子[illegible]は吉△九紫[illegible]木生[illegible]歩

遠山八十長女きく(八つ)は一昨日[illegible]町二丁目[illegible]にて金十錢[illegible]し其後[illegible]

託し近々同氏は渡韓の上實地踏査せしむる筈

天氣豫報(自十一日午後六時[illegible])

日刊(月曜及祭日翌日休刊)　明治四十二年九月十二日　京城新報　(日曜日)　第二百十二號　(三)

及び故郷に歸省するは吉其他凶△三碧……を生ずるなかれ積日計劃せる事着手するに大々吉とす△五黄 紛擾起り易き日となり△七赤 外迫外侵の禍害憂思なし疎漏缺陷失念の誤惑あり防ぐべし△八白

●毆さしき少女　集團談合の事吉　仁川花町三丁目居住の……

●韓國の模型技手　日英博覽會出品の韓國模型製作に就ては福岡市の岩瀬某に囑……

▲相談の相談▼
（何でも御相談に應じ升）

◎在龍山中野君至急來社あれ
但し身許引受證携帶せらるべし(係)

◎記者より　過日記者よりとして就職口ありとの廣告を致したるが被採用者決定したり、然れば通知なき向は縁なかりしものと承知ありたし、猶此際を利用して諸君に御注意致し度きは可否は當然紙上に發表せらるゝものを通信用として切手封入せらるゝは迷惑なり何とすれば一々各自に對して同一返信を認むは苦痛なるが依然らばとて紙上にて通知したるのみにて止めんか記者は三錢の債務を負ふ理に成り（韓種紹介を要するものは除外）諸君も又金子を無用に費す事になる三錢四錢は米一升を炊く薪炭費に充分ならずや留意ある可也

◎問　僕は元來漢文を學びたいのですが一体漢文などは或程度迄は自修しても相當の智識は得られるでしようか而し博學なる師に就て學ぶに若くはないと思ひます、所が私の見聞を以てすれば當京城には然かく博學なる先生は無いようです、而のみならず普通な平凡なる先生も教授所も多く無いように思ひますが若し有りますなら平凡なる先生でも宜しい、教授する人が有るなら二三個所御教示を乞ふ因に私は晝は役所に通勤しなければならぬ故に夜間教授する所を願ひます、外に師に就かず勉強する方法があるならば何卒御傳授を願たい文章が拙ですから御判讀を乞ふ(淸夢生)

◎答　黒丸を附したる所は不必要なるのみならず無禮の極である、師を求むる子弟の口にすべき事でない、貴子は自己の見識を示した心底かも知れぬが、豈に圖らんや君の人格を下げたこと數等だ以后は具々も注意せられたい、其處で旭町一丁目の京城學舍では渡邊と云ふ方が擔任せられて居て夜間教授であると記憶する、次に特に教授を願はれたら承諾せらるゝと思ふのは黄金町の千葉昌胤と云ふ方である尚自習の方策は幾程もあるが先生に相談せられて其の指示に從ふが上策です(係)

●刑事殺しの公判
▲警察の申立を打消す

本年二月二日の夜西小門外に於て警視廳訊問課の刑事山本雅夫氏を短銃にて射殺したる奥谷悦治(三〇)津城太八(三〇)三浦周吉(三〇)の公判は昨日午前十時四十分仁川理事廳に於て開廷さる高木裁判官高橋檢事代理林書記官代辯護士等着席先づ高木裁判官は被告太八の身許を調べ且つ警察に於ける申立に相違なきやを尋ねたるに彼れは悉く之を否認し次ぎに周吉は同夜太平町の料亭八重咲にて友人京城民團役所勤務松本某と十一時頃迄會飲し其れより同町の二葉樓に至りて又もや痛飲し翌午前二時頃同樓の酌婦おまつを連れて歸宅し翌朝迄同衾したれば決して同夜兇行に携はりし事なしとて先きの自白を打ち消し次ぎに本事件の主犯たる奥谷悦治は自分が警察署にて自白せしは係りの坂本警部が貴樣は俺れの部下を殺した仇敵だとて無暗に打擲し其責苦に堪へずして下手人たる事を申立てし者にて全く覺へ無き事なりと圖々しくも警察に於ける自白を打ち消したるが裁判官は青木角太郎及び藤本德藏なる者を證人として召喚する旨を告げ午後一時閉廷したり當日は傍聽者場の内外に充滿し桐原南部署長等をも見受けたり(仁川電話)

●旭町の虎疫發生
▲疑似患者一名發生す

先般大和町に一名の虎列拉患者發生し間も無く死亡したる事は別項記載の通りなるが今又旭町一丁目百五十八番戶石工小笠原方小野烈太郎は疑似虎列拉症に罹りたりと云ふ虎疫蔓延の兆ある今日各自大に警戒を要す

●た福さんの豪い權幕
▲藝者の中では妾が一番

一昨十日の夜八時頃壽町二丁目の料理店さかね家と云ふよりは食道樂で有名なる其のさかね家の表二階を占領して花月のれふく其他二三の藝妓を側に引き付けアヽでもないコツでもねいと贅を盡せるは浦尾旅館を定宿とせる釜山の寺尾さんれふくとは餘程の深い交情と見へ他の藝妓は連の客に任せれふくと二人差しつ押へつ初めの程は至極温和かりしが漸次醉の回るに隨れ彈けよ踊らう、夫れ宜しいと早速使者を花月に遣つて三味を取り寄せ都々逸、サノサ節、ヤッチヨロマカセ、ラッパ節等知つてる丈けの藝盡し藝は夫れ程でないとの世間の評判も的にはならぬラッパ節迄知つて居るれふくは中々多藝なものさ隣り座敷や下座敷の野暮共をアッと云はせたが聽ての事に踊りなるものが始まる生來て始めて踊りと云ふものを見たる拙者は踊りと云ふものは跳ねて飛べば宜いものと合點はしたが搖らないのは下座敷の連中感心と喧ましとは別物だけに不平たらだら一組去り二組去つた十二時過ぎでも二階の連中勇氣益々加はつて根臺が拔けるか足が折れるかと踊る踊る……日本では暴れると云ふ……當人は面白いか知らないが時間過ぎの事でもあるし御近所へ濟まないと亭主の心遣ひから濟みませんが時間過ぎですからと注意したるにたふく忽ち眉間に皺を引つ張り寄せ病氣上りの毛虫の樣な眉毛を逆下し鼻を怒らせ牙を剝き藝妓に能く似た虎の如くなり吹くは吹くは吹いて吹いて吹き拔いた揚句に曰く花月のれふくは外の藝妓と違ふんだと踊るは唄ふは……日本では暴れるは怒鳴るはと云ふ……の大亂痴氣、馬鹿と刄物は恐いものと仕て居る亭主は縮み上つて居たが外ならぬ寺尾さんに宥められ手々を引かれて歸つたと見て居た生の注進のまゝを

●若い同志の駈落

仁川驛前稻田旅館へ去る七日より投宿せる怪しき男女あり仁川署の刑事は若しや拐帶犯人にあらずやと一昨日本署に同行して取調べたるに右男女は兵庫縣氷上郡柏原町居住の小林謙次(二十二)及び同町の料理店喜樂亭の抱藝妓小雛事前田ぬい(十九)と云へる者なるが不圖せし動機にて本年六月頃仇し契りを結びけるより未だ戀知らざりし兩人は初戀の甘き香に醉ひつゝ親の意見も馬の耳に風と聞き流しつゝ意茶附き居たる程に驗から廣からぬ町の事なれば忽ち八の口端に上りて五月蠅き事云はん方なきに互ひにしめし合せたる末親の金子五百圓を持ち出し共に手に手を取りて隨德寺を極め込み仁川に來りたるものとて判明せしかば説諭の上放還したる由なるが斯かる男女の行末こそ愛ふべきなれ

●近事俗謠　うろ子

△掬翠樓主の亡魂
何んと言譯亡き我が夫の
佛間に朦朧い御燈明

△韓國と日本の戀
賴り内地に身は殘されて
心魂は藻拔のからの國

△日韓車挽の爭論
横道に車の輪からん同士
警察の御荷物絶はせぬ

△越禪三子の的事
醬油貴郎の心情と知らず
今まで盡した會社ない

●怪しき男の拘引

再昨日午前三時五十分頃大なる風呂敷包みを携へたる風体怪しき男の本町裏通りより旭町一丁目方面へ向け通過せんとするを夜警張込中の巡査が認め擧動如何にも不審なるより之を追跡して理事廳正門前なる三叉路にて取り押へたるが此の者は靜岡縣沼佐郡淺江村平民當時京城本町九丁目十四番戶居留大工職橋元順平と云ひ目下取調べ中なるが豫想外の罪科を有せる見込なりと

●仁川の虎列拉菌

仁川萬石洞居住の宮川貞吉及び同花村洞居住の韓人安龍山が疑似虎列拉にて死亡したる由は既報の通りなるが内部衛生局にて兩名の糞便を檢査の結果眞性虎列拉菌を發見したりと云ふ

●仁川の豫防勵行

仁川の韓人部落に惡疫流行の兆なるにぞ仁川署に於ては數日前より署員總掛りにて消毒に着手すると共に一方同部落の檢病的調査を開始する由

●古文書の持遁げ

學部編輯局の給仕英哲(十八)は去る九日同局保管の古書百十四冊を持逃げして行衛不明となりしが仁川に潜伏し居るやの形跡ありと

●虎列拉患者死す

大和町一丁目江藤時三は過般虎列拉病に罹り青坡避病院へ入院加療中なりしが去十日遂に死亡せりと

●クラブ洗粉の盛況

婦人間に一日も缺く可からざるクラブ洗粉は昨今秋暑に向ひ皮膚の爲めには盛夏に比して肌理の荒れ易き折柄として男子間にも石鹼の代用として盛んに常用せられ需要益々多く製造元にては益々原料を精撰して顧客に酬ゆると云ふ

演藝

▲歌舞伎座　旭町歌舞伎座本日の替りは『意外』全五場又明日の替りは『危機一髪』全六場なりと云ふ

吉凶鏡

本町五丁目　三二館判斷

九月十二日舊七月廿八日四綠佛滅乙亥たいら△一白　安寧の日なり大事は凶、井泉、水道の工をなすには最も妙△二黑　窮厄の日謹愼を要す只農業林業に佳なり△三碧　復雜紛糾の事を處理處斷するには凶火の元の用意を要す其外吉△四綠　不通不達の日守成の意にて多分を襲ふなかれ交際上に留意すべし間違起り易し△五黄　短慮失却あり酒色諸勝負事を堅く戒しむ△六白　伐木土工には吉其他凶親類緣者より不利なる音信に接するあり△七赤　視察檢分考案等豫備の行動は吉實行差手の事あしゝ△八白　談合組合團体間に爭論又は破綻の虞あり盜難の心ぐべし△九紫　通達の日とす多少の野心的に渉る行動效を奏す愛情感情に沈溺して意思の中正を失ひ誤りを惹起す勿れ

右は概括的判斷なり各人格別に付ては直接同館の鑑定を請はるゝ可し

◀平民文庫▶

▲日の出亭續譚▲ト見たる此方の女もさる者とヒラリと門内へ燕がへしガチャリと木戸を鎖さぬ間にモウ外から査公は「開けろ」と來た▲跳持つ脚の女には押し返して「何御用」と聞き反すべき力はない「ヘエ」と脆くも戸は開かれて査公が一足踏ん込んだ途端に部屋部屋の燈灯は一時に消へた、査公聊か度膽を拔かれた形で一寸躊躇た際を得たりと左手の奥の温突の扉を蹴開く樣にして足音を忍ばせて立ち出でたるはヘルメット帽を頂いたる紳士體の男▲帶を締める間も無かつたか前も露は、飛び出は出たが一寸見當が附かないので右へ行つては頭を打つつけ左へ行つてはノメッたり眞劍の暗闘、見る者の眼に可笑しい丈け當人の苦しみは一通りでは無つたら▲夫れは扨てれき此の男の敵妓は矢庭に暗を探れる男の手を小脇に抱へ男は此れに負はれる如に危く逃けて支那家屋の方の表二階に腰を下してホッと息吐く間もなくビールは運ばれて鬼でも蛇でも行つて來いの準備は整ふ▲話は變つて表の査公は支へる女を叱り飛ばして主は藻拔けの部屋々々に再び灯を點さして見たとて何が居るものか▲空しく長蛇を逸したる査公が立去る後姿を見へなる女の曰く「余り早く癡たものだから」とは此の床急ぎ奴▲此の後は可憐相だから預つて置く▲これで終ひ(係)

▲何んだ詰らない(小僧)▲水月の酌婦どもは歌を唄つてホッツキ歩いてる注意しろ(通行人)▲太平町長谷川町一帶の飲食店の酌婦は大變此の頃は溫和い他の稼業と違うのだから成る可く他人に好かれる樣遠慮と云ふ事を知らねば惡い、冷かしちやない此の頃は大變溫和い自身の爲めに結構だ(石井洞人)▲壽町二丁目の龜屋さんに變な女が居ますが何者でしよう(近所の女)▲淺野の店員さん取消しは貴郎の自由だが自分の胸に覺へはないか切角辛棒なさいませ(注進生)▲花月のれふくが威張りの一條御投書の御方へ申す雜報欄へ回しました(係)▲一の眼、此の通信社は調査物を能く通知する誠に熱心な通信社である二の眼、調査物と云ふも度支部や關税局の活版刷り報告の拔萃で實は歩かずに種を採ると云ふ寸法である三つ眼、併し拔萃でも之を調べるには大部の報告の中から萃を拔くのであるから中々骨が折れ一々算盤を置く必要がある殊に材料が比較的確かだから威かしの政治種杯より中々有益である(珍古郎)▲掬翠と花月の藝者とを比較するに花月の方が遙かに上品だイヤ掬翠と比べるのは花月が可憐さうだ主人の人格に相應するのだと見へる(公平子)

西の風晴

●新聞料 ▲一枚金二錢 ▲一ヶ月前金卅五錢 ▲三ヶ月[illegible] ▲六ヶ月前金貳圓 ▲郵税一ヶ月金拾錢

●廣告料 ▲五號活字十九字詰一行一回五十錢 ▲廣告五號活字十九字詰一行金六十錢

發行兼編輯人 高木久馬太

印刷人 [illegible]久神一郎

發行所 京城新報社 京城西小門通 電話六六三番